

# 平安宮内裏内郭跡

## 発掘調査現地説明会資料

昭和62年9月20日

(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 1 経過

京都市上京区下立売通土屋町東入田中町445の民家新築工事に伴う事前発掘調査(面積約40㎡)を昭和62年8月24日から実施している。現在までに以下のような成果が得られた。

### 2 遺構

建物遺構の東南隅付近を発見した。遺構は、基壇と雨落からなる。雨落は溝内敷石と2列の側石からなる河原石敷で、溝の内法38cm、(外法約1m)、深さ6cmを測る。東西方向に約5m出土し、ほぼ完全な状態で遺存していた。さらに東端で北に折れ曲がっていた。

雨落から内に約3.2m入った部分に高み約15cmの基壇縁が認められた。基壇上では明確な柱跡は遺存していなかったが、凝灰岩粉末の密な浅い凹みが1箇所<sup>レ</sup>で認められた。基壇縁は、のちに改修を受け、そこに部分的に縁石が遺存<sup>レ</sup>していた。基壇上及び基壇外の土底部分は赤く焼けていて、建物の被災を示していた。また一部では檜皮とみられる炭が層をなして堆積していた。

雨落は9世紀初め頃の性格不明のL字形に曲がる溝を破壊して造られていた。雨落からは9世紀前半の土器類(土師器・須恵器・緑釉陶器)などが出土した。基壇外から雨落の外まで9世紀前半以降、数度にわたり整地されていた。その整地上で少なくとも2面の被火災面が認められた。最上位の整地では、10・11世紀の遺物も認められ、その部位で南北方向に並ぶ礎石据え付け跡2箇所及びそれに類する凹み1箇所を確認している。

### 3 遺物

現在約35箱の遺物を採取している。平安時代の遺物は基壇外を覆う整地土からの遺物が多く、土器類の細片が大半であった。他にガラス玉、銅製金具、琥珀片などが出土した。瓦類の出土はきわめて少なかった。

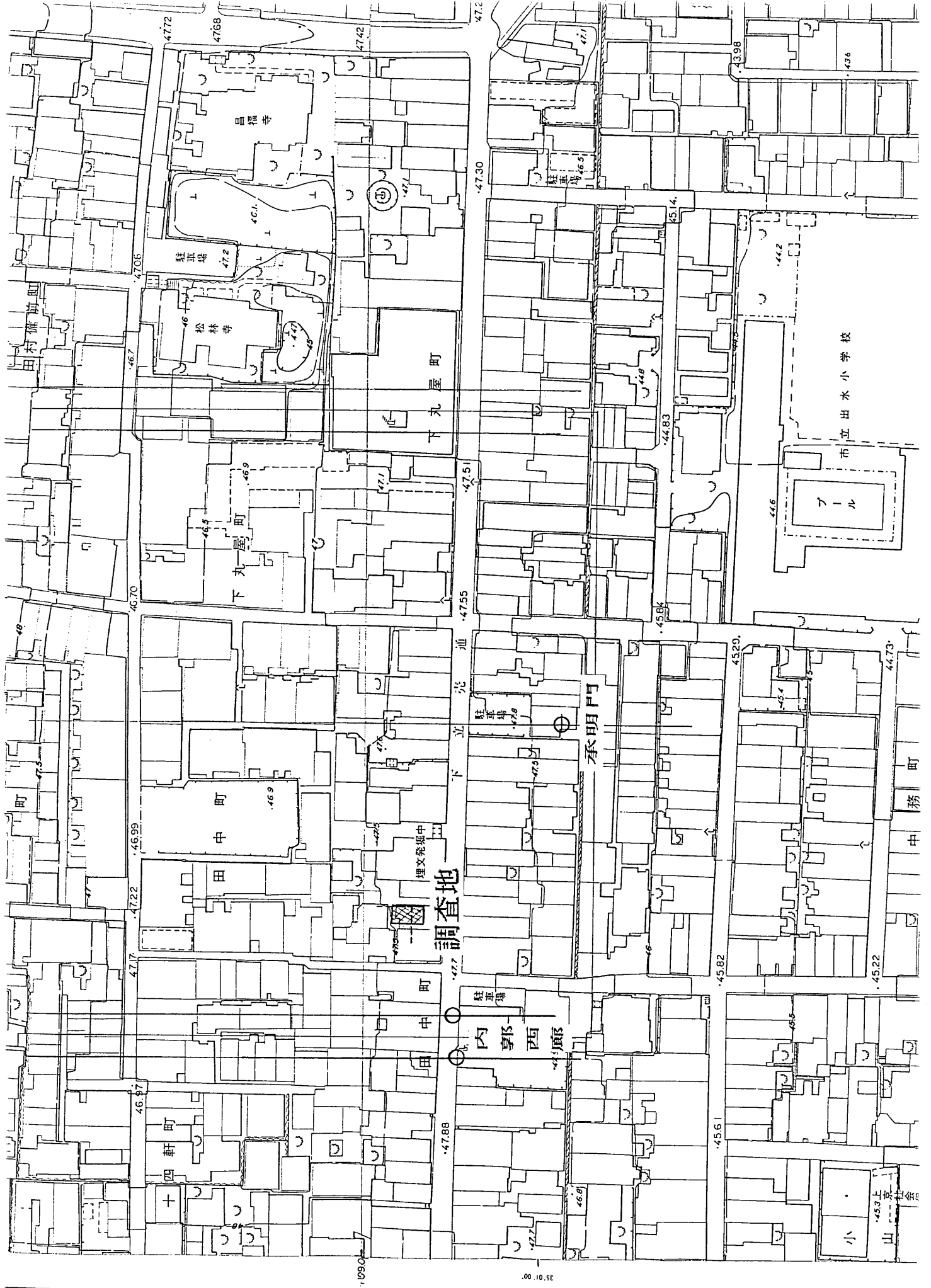
#### 4 まとめ

平安宮内裏内郭内では、今まで内郭西廊、承明門北雨落、登華殿などの遺構が発見されている。特に、承明門北方の地鎮め跡の発見によって、内郭の四至をほぼ推定しうるようになった。

今回発見した建物の東南隅は、承明門中心より西約 51 m、承明門北雨落より北約 40 mの内郭西南部にあたる。付近にあったと推定されている建物は蔵人町屋であり、その建物の東南隅を発見したかと考えられる。

くろうどころ 蔵人所<sup>4975</sup> 令外官の一つ。弘仁元(八一〇)年創設され、蔵人の事務をつかさどった。同年の薬子の変にさいし、嵯峨天皇が朝廷側の機密保持のため、藤原冬嗣・巨勢野足を蔵人頭に任じて、重要文書を取扱させたことに始まる。天皇直属の重職として調度・文書のことをつかさどり、勅旨の伝宣にもあたり、権力を握った。職員として別当・頭・五位蔵人・六位蔵人・雑色などを置いた。明治維新後廃止。✓蔵人、蔵人頭

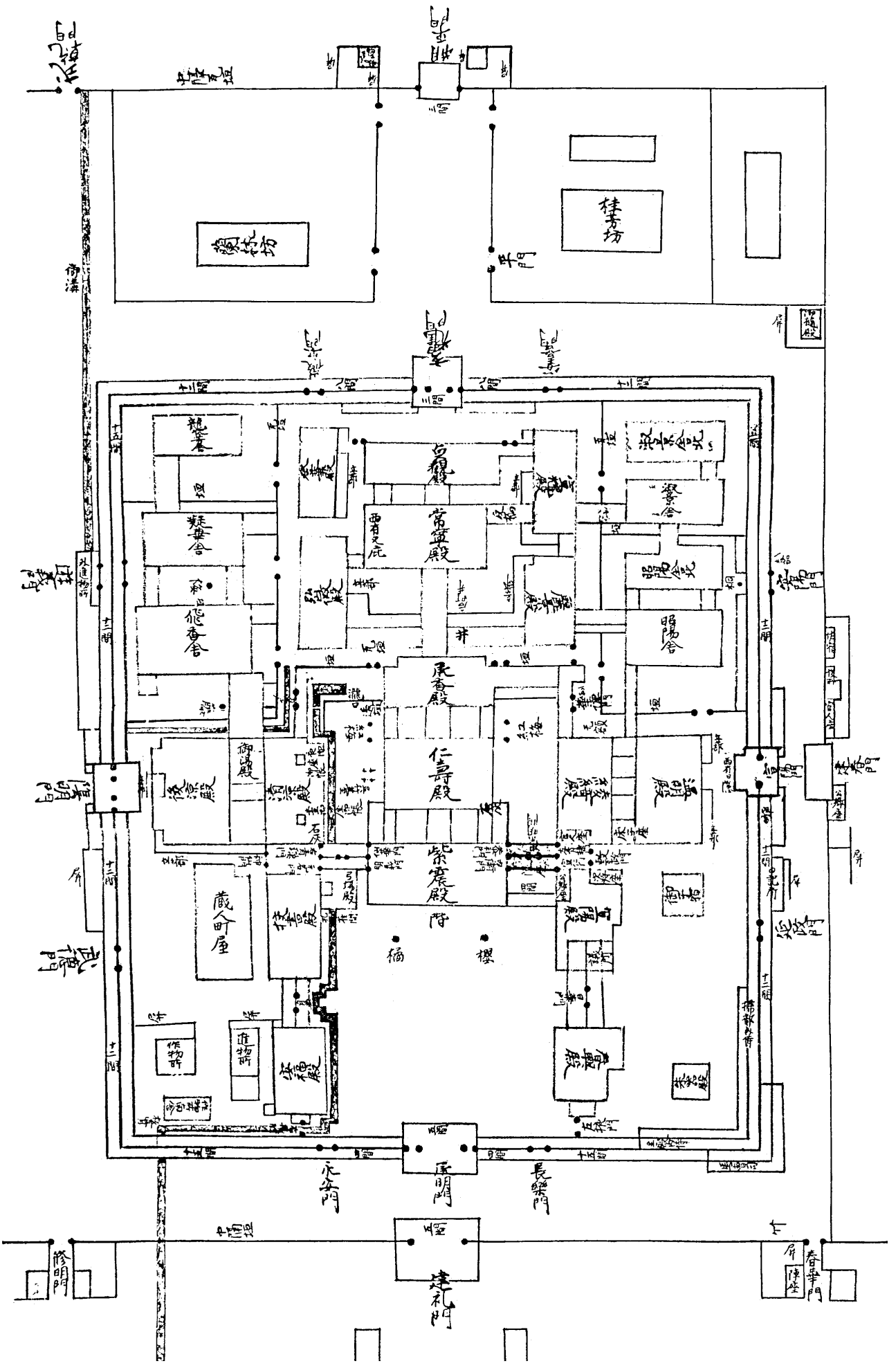
# 調査地



1090

00 10.50

外南表面



門 門 門 門

北門

西門

南門

東門

北門

南門

東門

西門

南門

北門

南門

西門

東門

北門

藏町屋

講堂

本堂

常盤殿

陽明殿

仁壽殿

紫宸殿

藏町屋

作務所

進物所

本堂

常盤殿

陽明殿

仁壽殿

紫宸殿

藏町屋

作務所

進物所

講堂

本堂

常盤殿

陽明殿

仁壽殿

紫宸殿

藏町屋

作務所

進物所

本堂

常盤殿

陽明殿

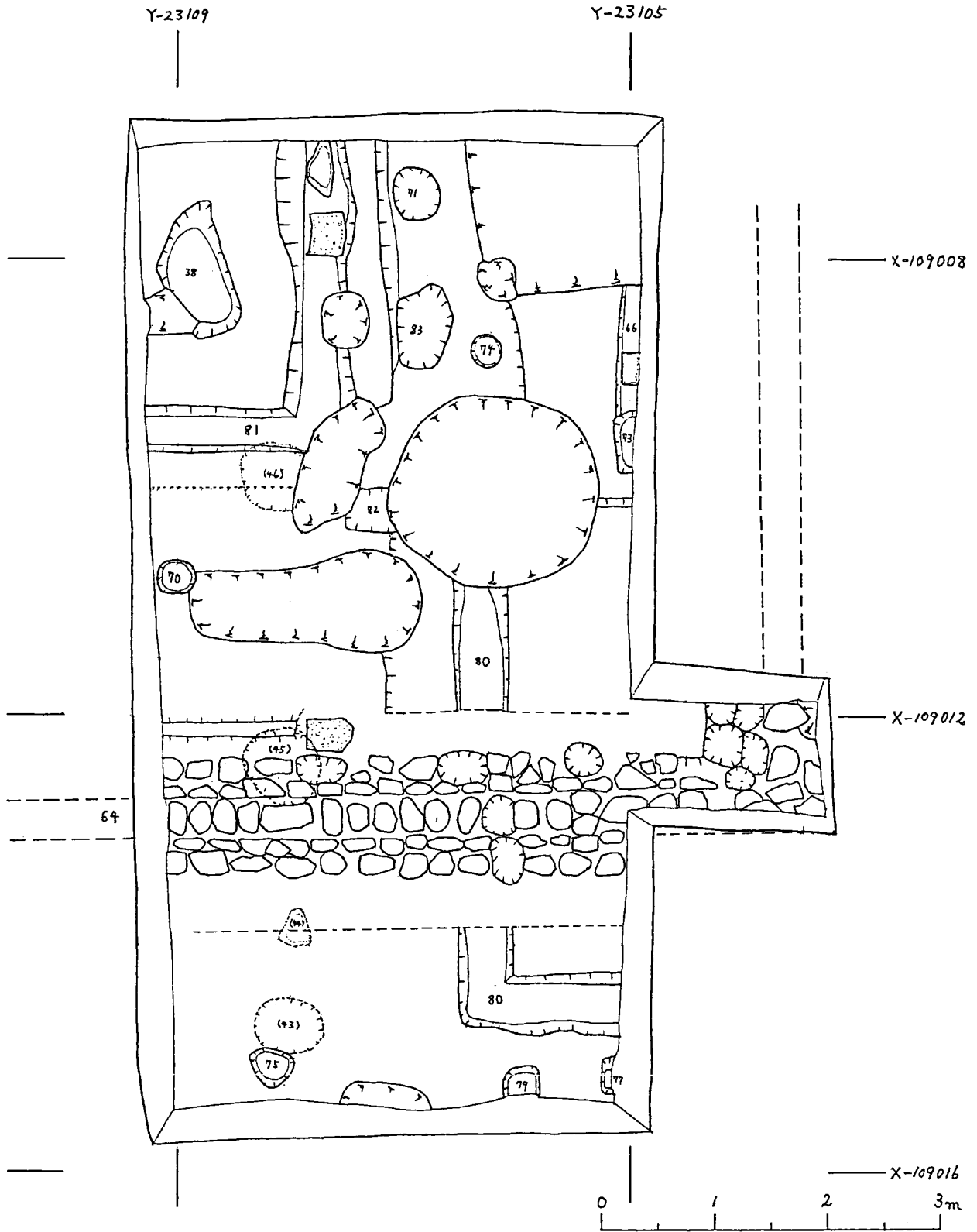
仁壽殿

紫宸殿

藏町屋

作務所

進物所



遺構実測図